館報 大豊
発行所　大豊電話局内　大豊村役場内　大豊村知事公室
発行人　郡内各町村長
印刷所　高知県中央公民館連合会
印刷人　杉本友茂
（非売品）

臨時村議会

任期満了で議長改選

新任＝議長　小笠原清浩氏
副議長　下村　博保氏

大豊村議会臨時議会は五月八日午前十一時に開議され提出された六議案の審議を行った。同議案の審議可決を午後六時十分に終った後小休に入り協議会に移った協議会では、新村発足後の組織議会で正副議長の任期を二ケ年とする申し合せにより、その改選を議題に取り上げることとなり、会期切れの午後十二時前に会期延長を決め約十分後の翌九日午前〇時五分に二日目の議会を開議した。

直ちに前釣井議長の辞職によって議長選出に入ったが万場一致で小笠原清浩氏に議長決定となり、続いて副議長は下村博保氏に決定となった。

正副議長の改選に伴って特別委員会委員長等も次の通り改選があり、夜を徹した臨時議会は午前三時十分に閉会された。

小笠原清浩氏

【審議可決された議案】

◇大杉小學校々舎改築工費四十八万円増額の専決処分承認について

◇村有財産処分について（元天坪村隔離病舎）

◇村有財産処分について（元天坪村引揚者住宅）

◇公有林官行造林設定契約申出について（庵谷カジガナル、実測面積約百町歩）

◇穴内川ダム対策特別委員会設置について

委員長　岡林大佐美、副委員長　森下龍平、委員朝倉寛一　議案以上議会運営委員長　岡林大佐美、副議会運営委員長　小笠原賀穂

基本財産造成対策特別委員会委員長　吉村孝吉、副委員長　岡林関係訴訟特別委員長　小笠原清浩氏

丁野武茂氏

助役　丁野武茂氏

五月廿日退職

昭和三十年五月に就任され困難な新村建設に当つて来た本村才一助役丁野武茂氏は五月廿日を以つて一身上の都合により退職をされた。

略歴

大杉村助役（大正十三年七月～大正十五年三月）
大杉村収入役（昭和三年五月～昭和六年十二月）
大杉村助役（昭和六年十二月～昭和八年）
大杉村報徳信用販売購買利用組合専務
大杉村農業会長
大杉村長（昭和十六年三月～昭和二十年五月）
大豊村才一助役（昭和三十年五月～昭和三十二年五月）

大豊村農業振興計画
各部落に推進委員の選任を予定

経済課長　西村泰登

中學校の統合について

教育長　長野政高

本村には御承知の通り中學が九校もありますが、四村合併の当初の建設計画（建設計画は昭和三十年度から同三十四年度まで五ケ年の計画）では「現中学校の位置とする」と決めてはありますが教育的効果の面から考えても或は又村の財政的面から見ても中学校の統合の必要性は凡そ教育に関心を持つ者は何人も認識している事と思います。所謂六・三制実施以前は旧四ケ村に一校しかなかつたので当時は往復十四、五粁以上の距離を朝夕通学する者もあつた事は御承知の通りでありますが終戦後十ケ年を経過しましたので道路も整備され、又橋も新しく架設せられた処もあり、或はバスも運行されて交通は著しく便利になつた訳で中学校を統合して数を減らしても著しく便利が悪いと云うことも出来ないと思はれます。

所によつては些か通学距離は遠くなる所は勿論出来る訳ですけれども子供の教育の効果を才一にお考えになつたら少々遠くなつても思い切つて戴かなくては仲々実現することがむつかしいことと思います。御承知の通り本村は面積が三百十六平方粁もあり、広いことは全国でも稀な程大きな村ではあるが人口の密度が小さある関係で生徒数が僅かにまして三学級で五、六名の先生ではどうしても全部の教科を受持つ先生が足らないので此の点だけ見ても中学校は最小限生徒数六百名位で九學級、先生が十四、五名の学校が望ましいのでありますが、それから財政的な面から見ると中學校が九つもあるのだから同じ品物を九つ買はなければならない訳です。例えば顕微鏡を年度の当初予算について調べて見ますと高岡、土佐山田、佐川等いづれも中学校は三校しかありません、尤も面積は大豊村の約三分の一位であり、交通も便利でありますが一校当りの経費は高岡町は九十五万五千円、土佐山田町は百三万七千円、佐川町が六十九万一千円、大豊村は僅かに三十二万円となつております、と

村の基礎産業は農業であり農業を盛にし豊かにすることが商業等をも豊かにする途だから村を挙げて農業を盛にしなければならない。

農業は非常に巾も広く深さも無限であり、何をどの様にしたらどのようになるかと云う実際問題になると仲々難しい問題である。

難しくても何とかならねば年を追うて苦しくなるばかりである。難問題とは何であるか、それは山あるがその解決の最も重要な鍵を握つている者は役場や農協でなく、それは「私達」自身の頭の中にあり「何をどの様に何とかしなければならないことは私達自身が話し合い考え決意し実行せねばならない。その為の課題を立案したり推し進める為に役場、議会、県指導機関、農協、森林組合は勿論のこと、農業委員会等で農業一般に就いて協議研究に取組みが出来、五月三十一日の部落長会にはかり各部落から若干人の推進委員の選任を願い、九月までに才一次五ケ年計画を策定、今後の大豊農業のあり方や各部落、各農家の事業を決め農業を盛に豊かにすることとなつたので部落長の伝達を中心に十二分の話し合いを御願いしたいと考えるものである。

適当であるかは教育委員会も重大問題であるので村長助役、村議会議員、PTAの役員、小中学校長さん達にお集りを願つて中学校統合研究会（会長は三谷村長副会長八木正甲氏、同佐々木義美氏）を結成して研究を進めておりますが、甲と乙との二校を丙の学校へ吸収統合にするか、或は現在ある學校以外の所へ新しく建築する所謂大同統合にするかは今後充分研究しなくてはならない問題でありますが合併後二ケ年になりますので中学校の統合は急がなくてはならない問題ではありますけれども新しい村造りの一環でありますので村内の平和を保ちつつ全村民の皆様に挙つて御認識と御協力を戴きまして此の偉業を完遂しなければならないと思うのでありますいづれ研究によつて資料が出来上りましたら御知らせ申上げまして御協議をお願いする事となりますのでその節絶大なる御協力をお願い申上げます。

れは小さな学校が多いから村の総予算に対する教育費が大豊村は十九%にもなつているのに一校当りの経費が著しく少いことになるのであります。教育財政の二面から考えてみるとまことに不利な点が甚だ多いのでどうしても中学校の統合が必要である訳でありますそれではにした

四、五十名位のものもあり三学級程度の小さな学校で先生も五名か六名しか居らず、最も生徒数の多い豊永中学校、大杉中学校、大田口中学校でも先生は十名で六学級であります、先生が十名の中学校でも教科と先生の担当時間の関係が充分でない場合もあります、或る教科は教える先生が居らないと云うこともあります

買うにしても九台必要ですが統合して學校の数を少くすれば同じ物を見せたり聞かせたりするに極めて少い経費で事が足るのですから施設や設備を充実して充分な教育をすることが出来ることとなりますので中学校の統合が必要であるとするのであります。大豊村と大体人口の同じ竹（一万人内外）の町村の

肥料の知識

前号より

大豊地区農業相談所

(2) 分けつを促進する
(3) 澱粉の生成移転を促進する
(4) 子実の量を増大する
(5) 成熟を促進する
(6) 種子の内容強化し発芽力を増進する
(7) 土壌中の有用微生物の活動を促進する
(8) 寒害を防止上有効である
(9) 収穫物の品質を向上する
(10) 病害虫、倒伏等の外障に耐える力を増す

等の効果があり、特に(一)(四)迄は重要な効果であるので留意して欲しい。燐酸が欠乏すると作物は軟弱となり、草丈は短かくなり分けつは少く出穂や成熟が遅延する。種実は充実が悪くなり種実重量が減じ品質が特に悪くなる。特に根群の発達は不良となり、作物の均等な成育は不可能となつてくる。

以上の様な点から燐酸肥料は窒素肥料に次いで重要な肥料である事を認識して戴きたい。

(二) 燐酸

燐酸は植物体内に多量に含まれている成分で穀物類では窒素一に対し〇・五五程度を含んでいるが、この成分の植物体内での生理的な主な作用は次の通りである

(1) 根の伸長を促進する

四国電力

穴内川にダム設置を申請

本村は設置反対に意見一致

本村穴内川(旧大杉、天坪を貫流)の水を発電用に使用のため四国電力株式会社では昭和二十九年四月二十六日付、建事発才六号(国分川水系穴内川筋「穴内川発電所」関係)及び昭和二十九年六月二十三日付、建事発才一九八号(吉野川水系穴内川筋「新平山発電所」関係)をもつて水利使用許可申請がなされていたが、大豊村長に対し去る四月四日付、公文書で高知県知事より「これが許可について貴村の意見を承知したい」旨の諮問があつた。

村当局では五月八日、臨時村議会に提案し討議の結果次の理由により許可しないよう反対決議がなされ村の意見としてその旨、県知事宛回答した。

また村議会では穴内川ダム対策特別委員会(委員長岡林大佐美氏)が設置され今後の対処策に万全を期することになつた。

反対理由

産業経済上は勿論その他水量の変化に依り受ける影響は甚大であり、且上流に大なる人工貯水池を持つことは直接影響ある下流民として常に大きな不安を伴うものであり精神的にも大きな打撃を受ける。

なお四国電力の水利使用の概要は次の通りである。

穴内川分(既設平山、新改発電所)改造計画概要

一、計画説明

穴内川は吉野川水系の河川で高知県長岡郡の国見山(標高一、〇八八米)笹ケ峯(標高一、一三二米)及び高尻木山(標高八九七米六〇)等よりその源を発し略東流して同郡天坪村に至り深流、河の川を右岸に入れ北流となり同郡大杉村に於て本流吉野川に合流する穴内川は全国でも稀な多雨地帯で年雨量三、〇〇〇ミリ～三、五〇〇ミリの降雨量がある。

河川流量は比較的良好で現在新改出力大字平山字中川より取水(最大使用水量1633m³/sec)し同村字平山へ流域変更する灌漑用水兼用の平山発電所(最大出力一八八〇〇KW)及びその放水を受けて発電する同種の新改発電所(最大出力八一〇〇KW)がある。

本計画は天坪村字樫谷に堰堤を築き有効容量57,500,000m³の貯水池をなし堰堤直下に最大出力7,900KWの新改一発電所を設け、その放水は下流に設置する天坪調整池に放流する。天坪調整池より取水する水は流域変更して長岡郡新改村大字平村山に設ける新平山発電所に導水され最大出力20,800KWを発電の後再び大楠植村字松ケ瀬に設ける新改才二発電所に導水され最大出力13,100KWを発電の後再び既発電所は廃止されるが新改川右岸の灌漑用水のため平山発電所の水路は存置しその水槽より必要量を給水する。故灌漑用水については貯水池調整池の築造によつて現在より好結果を生ずるものとされるこの新改逆調整池より既存の灌漑用水に必要量を給水し、尚堰堤による落差を利用し最大出力六二〇〇KWの新改才二発電所を建設する。本計画完成後は吉野川は減流し、北からは立川が流れ、部落は三分せられている、吉野川には原始的な渡船場を設け立川川には橋を架けて人畜の通行を図つていた。住民は古老の伝説によれば年度は不詳だが飯田刑部、秋山比源、同次郎作、徳弘某、久保某、小笠原某等の六、七人の諸士相前後して来住し土地を開発永住し、その子孫六十余家族に分れ氏神に新田大明神(祭神は新田義貞氏仏に馬頭観音を勧請祭祀している

2、川口御殿

藩主山内侯土佐入国以来陸路江戸へ参勤交替の節川口はその通路に当り昼支度所だつたので当時本山の豪商人長瀬氏が当地に御殿を建築し藩主へ御用立てた長瀬氏はその功により苗字を名乗ること又藩侯御通駕の際は川口に於て御目見得独礼を許され商人として無上の光栄としたと云う(御殿跡は現在の飯田茂則氏宅のほとり)

3、川口送番所

川口送番所へは近在十四ケ村より昼夜人夫拾六人宛毎日交代を以て詰切り藩の公用を辯じた内九人は当時使者飛脚の送り夫七人は公用ずる平坦な国道の開通にりこの道に移つた。

4、高札場

高札場とは当時の国法を衆に示す掲示場である、此の高札場は本山郷中では本山村と川口の二ケ所のみである(二つの様式があるが図解を略する)

5、道路及交通

藩政中の道路は本山より川口を経て立川に通ずるものは国道その他は里道であるその線路は多くは大小の河岸に沿い概して坂道を避けて作つたので道巾狭く夏秋は雑草笹葉等が道を覆い交通困難の処多くあつた川添に道を執ること不可能な場所は山腹を切開き、又峰越しの場所も多々あり川口本山間には下関の十二所北山の論所等の坂があり、川口杉間にては鳥越峠川口豊永間には磯谷凉み堂川口立川間ではホヲシ坂、千本坂等の難所があつた。

藩末維新前に領石から天行寺、根曳峠、戸手野、杉、川口を経て立川下名通り笹ケ峯に至る新道が開鑿せられ北方交通の便を開いた。

6、商売

川口に御免許店一軒あつた場所は御殿の傍で長瀬氏の出店である藩政当時は猟りに商業を許さず御殿があるを以て特に許されたのである、商品は反物類その他日用品又は物産買込、旅人宿等を兼業した。

7、飲食店

飲食店一軒あつた藩政中は容易に許可にならず年度は分らないが金六と称する不具者があり、その者の名を以て特に許され旅人の飲食物、ワラヂ類を売つた人は転々代つたが店株名は金六をもつて続けた。

8、医師

藩政中川口に地下医師あり元川口の人で林庵と云う人が高知市掛川町々医岩崎某なる人を師とし医業を学び終にその家の養子となり岩崎氏を唱え、川口に帰り地下医師となり玄庵、吉久玄と三代続き廃業した。

維新後の川口現在の川口に就ては稿を改めて記述することとしたい。

尚前述の事項は部落古老の伝説文献等によつたので幾分の誤は保し難い、責任は全部筆者にあること諒せられたい。

誤謬の点は御指教を賜はりたい。

秋山正隆

相互扶助で希望の生活へ

大豊村青蘭会結成

会長に長谷川ミツエさん

旧村に於て活動期に入ろうとしていた青蘭会は、合併後そのままに放置されていたが、このほど村厚生課のキモ入りで、長谷川ミツエ、野島馥、原紀代美、山中富子、小笠原菊江さん等の準備委員により二十二名の発起人を委嘱し、それらの発起人により村内の未亡人、母子世帯等の婦人三十名の集りをみて五月十七日午前十時より村役場会議室で結成式を行つた。

同会は会員相互の助け合いと励まし合いにより希望の人生に目ざめ婦人としての自覚の下に新生活を営むことを目的としており、相互啓発の為の会合や講習講演等の開催、再婚の推進等八項目の事業を行うことになつている。

役員は選挙により次の方々が決定された。

【会長】長谷川ミツエ(馬瀬)【副会長】小笠原菊江(落合)山中富子(舟戸)、崎田邦子(高須)【監事】北村八重(大砂子)、原紀代美(尾生)

〃お母さんを慰める会〃

日浦公民館の指導で健やかな活動をしている日浦子供会(五十名)は五月十二日「母の日」の行事として「お母さんを慰める会」を催した。

この日午後六時から部落内のお母さん約四十名が公民館へ集り胸にカーネーションを飾つた子供達の感謝の言葉を受ければ、喜びにあふれたお母さんの代表から答辞があり、一生懸命に練習した歌や踊りや劇を披露した。

舞台のうしろにはられた黒幕に「お母さんありがとう」と白テープの文字が浮び出て、その前で懸命の演技をする子供達に、お母さん方から感激、会が終つた後お菓子一袋がそれ〳〵子供達に贈られた。

夜を過した「母(日)」の行事も午後十時頃終り、仲良く手をつないだ母子が月夜の道を帰路についた。

母も子も本当に有意義な一日浦公民館の指導で健やかな活動をしている日浦子供会(五十名)は五月十二日「母の日」の行事として「お母さんを慰める会」を催した。

この日午後六時から部落内のお母さん約四十名が公民館へ集り胸にカーネーションを飾つた子供達の感謝の言葉を受ければ、喜びにあふれたお母さんの代表から答辞があり、一生懸命に練習した歌や踊りや劇を披露した。

舞台のうしろにはられた黒幕に「お母さんありがとう」と白テープの文字が浮び出て、その前で懸命の演技をする子供達に、お母さん方から感激、会が終つた後お菓子一袋がそれ〳〵子供達に贈られた。

夜を過した「母(日)」の行事も午後十時頃終り、仲良く手をつないだ母子が月夜の道を帰路についた。

母も子も本当に有意義な一

大田口社會学級開講さる

成果を挙げた舟戸社会の発展的延長として去る二十一日夜、大田口公民講堂で校下を対象に開講された。当夜は約二百名の出席を見て午後八時より挨拶、趣旨説明があり行われた後、舟戸社会学級自作講演「大豊村の歴史」(講師小笠原菊江氏)があり、次いで大豊村連合青年団の発足について(講師岡林大佐美